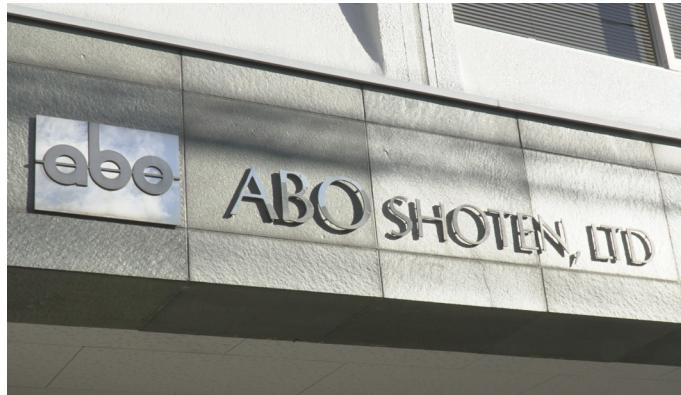
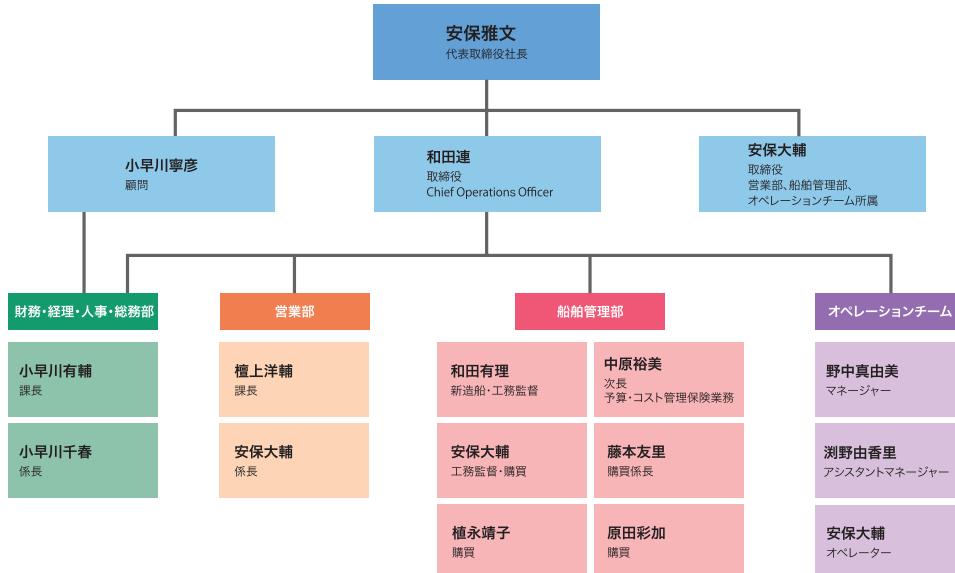


TEAM INTERVIEW 社員インタビュー

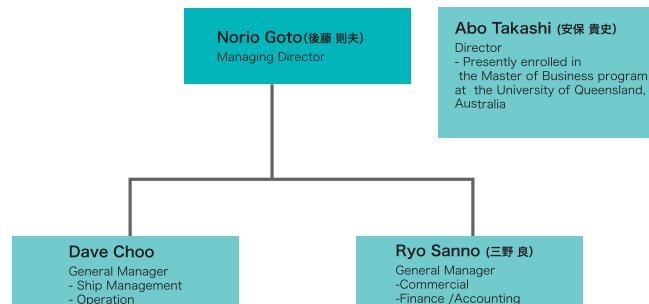
安保商店、次の20年を見据えて

近年、業務の拡大とともに
安保商店には新たな社員が次々と加わり、
第三世代と言うべき若い力が育ちつつある。
当社を担うメンバー達に
現在、そして未来の安保商店について
部門ごとにインタビューを行なった。

株式会社安保商店 組織図（2019年9月現在）



ABO SINGAPORE PTE LTD 組織図（2019年9月現在）



Chief Operations Officer

— 安保商店に入社した経緯を教えてください。

和田連 私は安保雅文社長の甥にあたり、子供の頃から尾道によく遊びに来っていました。両親は海事業界に関わりがなかったのですが、私が進学や進路を考えるとき、祖父・安保康夫の影響は大きかったと思います。「船は良いぞ!」と聞かされていましたから(笑)。大学卒業後、海商法で有名な先生が教鞭を執る米国のテュレーン大学のロースクールに留学しましたが、この在学中に入社試験を受けて安保商店に入社しました。テュレーン大学を卒業後、半年ほど安保商店に戻っていましたが、その後実務経験を積むために米国やシンガポール、ギリシャなど、海外のいくつかの会社で働きました。(p.051 参照) この時、タンカー関連や船舶管理、オペレーション業務などを勉強しました。当時、安保商店の業務は裸傭船のみでしたので、黒屋雅明前取締役からも「今後必要になるだろうから」と、これらの勉強を勧められました。

— その後、業務分野の拡大と社内体制の変革を主導されていますね。

和田連 2012年(平成24年)2月に安保商店に戻りましたが、業界の景気が悪かった中で11月にボタニイペイシッピングの経営破綻という事態に直面し、同社に出していた船を別の会社に定期傭船とするかたちで処理しました。これが契機となり、当社も自社で船舶管理業務やオペレーション業務を行うようになりました。この体制を構築するう



和田連

えで、海外での経験が大きく役立ちました。以降、現在に到るまでこうした業務を拡充させるため、新しい社員が増えている状況です。

— 今後の展望をお聞かせください。

和田連 世界的な環境規制の中で、海事業界では窒素酸化物排出3次規制(NOx Tier3)に代表される船の排ガス中有害成分の規制やバラスト水の浄化対策といった環境対策が実施されています。また2020年(令和2年)にはSOx(硫黄酸化物)排出規制も強化されます。こうした情勢に私共も船主として対応していく必要があります。またその中で新造船だけではなく中古船ビジネスも手掛けはじめています。今後は裸傭船も定期傭船も、新造船も中古船も、そしてバルカーにもタンカーにも対応できるというかたちで、お客様やマーケットの要求に対応できる体制を構築していくことが重要だと考えています。

— 担当業務を教えてください。

小早川千春 私は主に総務や人事関係の業務を担当しています。業務拡大に伴う新しいスタッフの面接なども大事な仕事です。また今年から新しく経理の業務を授かり、日々猛勉強中です。これまで少ない人数でやってきましたが、人が増えることによって周りにも相談できる環境になりました。こうして環境が整っていく中で社内全体に目を配り、円滑に進む手助けができる役割を果たしたいと思っています。

小早川有輔 私は船の収支を管理したり、融資の契約、船舶の売買など、主に金融機関に対する窓口業務を担当しています。これらは永年、父の小早川寧彦が担当していた業務で、今はそれを私が引き継いでいるかたちです。こうした経理業務は会社の経営状況を判断して行き先を左右する重要な役割だと思いますので、とにかく慎重に仕事を進めていきたいですね。

— 社員が増えてきた現在の社内の雰囲気はどうでしょうか？

小早川有輔 これまで三野（良）さんがムードメーカー的に皆を盛り上げてくれていたのですが、彼が今春シンガポールに行ってしまったので、今はちょっと落ちていますね（笑）。

小早川千春 ただ全体的には新しい人が入社したり、（安保）大輔さんが戻られて、会社全体がとても活性化しているように感じています。



左から
小早川 有輔
小早川 千春

— 安保商店に対する想いをお聞かせください。

小早川千春 変化の大きい海事業界の中で、当社が 60 年も続けてきたのは先輩方の努力の賜物だと思います。その歴史や先輩方が築いてきたものに恥じないよう、私も会社に貢献し日々精進していきたいと思います。私自身は業務上、直接船に関わることは少ないので、現在その知識が十分ではありませんが、今後はどんどん勉強を重ねていきたいですね。そして、会社全体でお互いに尊敬しあえる関係で切磋琢磨していきたいと思います。

小早川有輔 これまで先代や現社長、諸先輩方が培ってきたノウハウを現状のまま引継ぐのではなく、私たちがその精度をさらに高めていきたいです。そしてこの 60 周年を通過点とし次世代を見据えて、会社の発展へ努めてまいります。

営業部

— 営業の業務について教えてください。

安保大輔 私たち船主の仕事というのは、商社やブローカーから「この傭船者が船を必要としているので、安保商店でもちませんか?」と紹介していただいたり、時には自ら案件を探したりして、その傭船者に私たちが船を貸し出す、という流れです。その中で私たち営業がどのくらいの傭船料なら採算が合うのかを計算して先方と交渉します。

檀上洋輔（以下、檀上） また、その船を所有するうえでファイナンサーにも説明できるように数字を出して納得していただく必要があります。そういう中で、定期的にお客さんの所を回って、どのような商売が行われているのか、そこにどのようなニーズがあるのかを伺っています。

安保大輔 他にも近年短期で回す目的で中古船の売買もしています。若干リスクも取りつつマーケットの利益を享受できるのが魅力です。

檀上 私は尾道出身で造船所で9年ほど勤めた後、安保商店に入社して2年ほどになります。入社前、安保商店と言えば裸傭船というイメージが強かったのですが、入社後の2年で裸傭船から定期傭船に切り替わった船が4隻ほどありました。さらに今大輔が言ったように、中古船をマーケットで買って定期傭船に仕立てるという、日本の他の船主ではほとんど例のないものにチャレンジしています。このように時代の流れをしっかりと読んで、その中で求められる仕事をつくっていき



左から
檀上 洋輔
安保 大輔

たいと考えています。

— 安保商店をどのような会社にしていきたいですか?

安保大輔 「信頼」が取引のベースとなる業界ですから、仕事で不義理だけはしないように心掛けています。ひとつひとつの仕事を地道に積み重ねていきたいですね。当社は決して大きな会社ではありませんが、既に業界でよく顔の売れている和田連のように、私たちひとりひとりが多くの信頼を担える存在となっていきたいと思います。

檀上 安保社長と小早川顧問を除くと皆40代以下と若い会社になりました。そういう中で社長の人柄によるところが大きいと思いますが、皆が意見を言いやすい議論のできる会社だと思います。社員各々の家庭の状況もお互い理解しながら助け合って仕事が出来ているので、この雰囲気で良い仕事が出来ると良いですね。

船舶管理部（予算・コスト管理保険業務／購買）

— 船舶管理部門について教えてください。

安保大輔 少し前まで当社の船はほとんど長期の裸傭船でしたので、船をお貸した後の管理はすべて傭船者の方で見ていただくということが多かったです。それがボタニイベイシッピングの経営破綻を契機に短期で船を動かす定期傭船の船が増え、その流れの中で船舶管理業務も一部私たちが行うようになりました。具体的には船の部品を調達する購買などですが、こうした仕事は船がいつ、何を、どのくらい必要としているのかがわかるため、社員育成の観点からも積極的にやろうと、和田連が先頭に立って取り組みを進めています。

— 担当の皆さんの仕事についてお聞かせください。

中原裕美（以下、中原） 船舶管理は基本的に船ごとに担当者を決めて仕事をしていますが、私は担当船をもたず、船舶管理費全体を見て



左から
植永 靖子
安保 大輔
中原 裕美
藤本 友里

います。毎月船舶管理会社から送られてくるレポートを元に、外注の管理費用と当社で管理している費用を取りまとめて集計するのが主な業務です。また保険関係も担当しており、費用に関する毎年の交渉や、万一事故があったときにオペレーション担当のフォローも行います。

今春から会計システムによりデータを一元管理し、その蓄積された情報を見ながら分析・活用できるように環境を整えました。これにより、コスト面の効率化を目指す一方で船舶の安全運航管理にも役立てたいです。

藤本友里（以下、藤本） 私は定期傭船で運航している船の購買を担当しています。担当船はありますが、全体をカバーできるように全船の動静や購買関係を注視しています。購買の仕事は、船や機器の部品を本船・管理会社と協議しながら選定します。相見積もりを取り予算に見合ったものを手配したり、必要であればメーカーの技師派遣の手配も行います。毎回違う港、違う部品、それぞれ違うサプライヤーなどと勉強する事が多く、やりがいを感じる仕事です。

植永靖子（以下、植永） 今年2月に入社した私は一番新人ですが、社会人としては一番ベテランではないかと思います（笑）。私は10年ぐらい海外で生活する中で英語の事務職などを経験してきましたが、船主義は初めてで、現在勉強の日々です。ただ環境の良い尾道という街で、これまでの経験を活かしながら世界と繋がることができるこ

の職場が、自分にとても合っていると感じています。

現在3隻の貨物船の購買を担当していますが、ドライドックや定期検査がある時は部品手配などが忙しくなります。入社早々、これが3隻重なったのは良い経験になりました。現在、業界の知識を増やすため、業務の合間にセミナーなどにも参加しています。

— 今後の展望についてお聞かせください。

植永 購買業務の他に社員の英語力アップのサポートをしています。社内で週1回、講師に来てもらい英会話教室をしていますが、初級の人も英会話に馴染めるような仕組みづくりの面で、私が役に立ちたいと思っています。また、私も3人の子供を育てるワーキングママですが、仕事と子育ての両立を応援してくれるこの会社に助けていただきながら充実した日々を送っています。働く母親が多い会社ですので、今後も風通しの良い環境づくりのために貢献したいと思っています。

藤本 私は昨年晚秋に出産し、今年5月に仕事復帰をしました。弊社は尾道ではこんなに働きやすい会社はないと自負できるほど、福利厚生が整っており、日々社員が働きやすい環境を整えています。世代交代が進み、子育て世代が増えたこともあり、お互いを助け合い、補い合う風潮がうまれています。今後もこの社風は変えず、社員一同互いに切磋琢磨し、スキルアップし続けていけるようにしたいです。

中原 安保商店の創立後、これほど従業員数が増えたことはありません。この大きな変化の中で、皆が話したような働きやすい環境が整っていますが、そこに甘んじることなく、向上していきたいですね。

安保大輔 船舶管理部門は今後より効率化が進んでいくと思います。その中で新しく入社する人もストレスなく学んでいける環境が整っていると思います。またこの業界は必ず英語が必要となりますので、現在原田が体験しているように、若い人には率先して海外に勉強に出たり、社内で英語に触れる機会を増やしていきたいと思います。

原田彩加

主に中国や豪州、フィリピンに寄港する船の船舶管理を担当しています。今年2月に入社して、この業界のグローバルな仕事、多岐に渡る関連業界、そして船舶輸送の需要の高さを知りました。入社



原田彩加

以降3隻の船を担当してきました。現在は1隻のみの担当ですが、いざれば複数隻増やせるように、またそれと同時に英語の上達や船の部品に関する理解も深めていきたいと思います。当社が今後70、80周年となるときに、私も会社の発展に貢献できていると幸いです。

船舶管理部（新造船・工務監督）

— 工務監督業務について教えてください。

和田連 現在、工務監督は和田有理が担当しています。この業務は当社の船を建造する際に長期間造船所に詰めて、設計図通りに建造されるよう、その工事を管理することが主な仕事です。また完成後も船から上がってくるレポートやトラブルの内容などを把握して、船舶管理会社と協議してその対応に当たるなど、多くの仕事があります。

和田有理 私は2013年（平成25年）に入社し、黒屋前取締役の指導の下、新造船監督業をはじめました。2015年（平成27年）に尾道造船での新造船監督がひと段落した後、船舶管理部門で購買業務を含む業務を担当していましたが、スタッフが増えてきたこともあり、工務監督・新造船監督に専念するようになりました。現在に至る6年半の間に完全な新造船としては2隻の建造に関わりながら勉強をしてきました。

和田連 運航している船の修繕などは他の社員が担当することもありますが、新造船は完全に和田有理がメインでやっています。長期間造船所で作業を見守るので、細やかさと忍耐強さが必要な仕事です。

和田有理 造船というのは、溶接をはじめ同じような作業の繰り返しですので、作業員の方のムードやモチベーションが落ちないよう現場の雰囲気づくりも監督として大事な仕事です。そういう意味では、船と向き合うのと同時に人と向き合う仕事ですね。こうして自分が誕生

左から
和田 有理
和田 連



に関わった船に対しては想い入れもひとしおです。

— 今後の抱負などをお聞かせください。

和田有理 船体・エンジン・溶接・塗装など、造船に関わる事柄は広範囲に及びますので、勉強し続けることが大事だと思っています。

和田連 船舶管理部門をはじめ、今多くの社員から「船そのものについてもっと勉強したい」という声がありますので、造船所で実際に建造に立ち合っている彼の知見を社内で上手く共有するシステムが構築できると良いと思っています。安保商店はここまで60年間続いてきましたが、浮き沈みの激しい業界ですので、生き残っていくためにチーム全体で高いレベルの情報共有がとても重要になると思っています。

和田有理 そのためにも大海原を悠然と進む「沈まない船」を、私がしっかり造り続けたいと思います。

オペレーションチーム

— オペレーション部門とその体制についてお聞かせください。

和田連 海運業界は基本的に取引先との契約に基づいて動いていますが、実際に船が動いているとさまざまなことが起こります。オペレーション、つまり船の運航という仕事は、傭船先が運航している各船をずっとモニターしながら船主として気になることや見解の相違等を拾い上げ、営業担当が次の契約を決める際にフィードバックするという重要な役割を担っています。現在この業務を2018年（平成30年）5月入社の野中が主に在宅勤務というかたちで担当しており、何かあれば私に相談してもらっています。また本年秋から野中が育休に入ることもあり、今夏から新たに渕野がこの業務の担当として入社します。

— おふたりの経歴を教えてください。

野中真由美（以下、野中） 私は海運業界で働いて10年以上になります。最初は傭船者として船を動かすオペレーターの会社で、次に安保商店と同じ船主に勤めました。前職では運航と並行して新しい船を仕込んだり、対外交渉を行う営業も担当していました。

渕野由香里（以下、渕野） 私が海運業界に入ったのは野中と同じ2007年（平成19年）です。オペレーターの会社で運航と管理業務を行い、その後シンガポールのブローカー会社などで働きました。このブローカー会社でお客さんだった野中と知り合い、そのご縁で今回

左から
野中 真由美
和田 連
渕野 由香里



安保商店に入社させていただきました。

— 業務について、また今後の抱負についてお聞かせください。

野中 傭船料は契約で決まっていますので、運航中の大きなトラブルはロスに直結します。それを防ぐためには日々船の情報を収集することが重要です。船ともコミュニケーションをとる機会も多いので、大海上で20数人で頑張っている乗組員の方々が孤立していると感じないよう、チームとしての信頼関係を大事にしたいと思っています。

渕野 私はこれからはじまる安保商店での仕事をとても楽しみにしています。社内の他の部署、船、船舶管理会社、傭船者、ブローカーと連絡を取り、多くのことを勉強できると思いますので、自分自身が成長して信頼される「海運マン」となるためにも頑張りたいと思います。

和田連 ふたりとも経験豊富で探究心があり本当に心強いです。

ABO SINGAPORE

— ABO SINGAPORE や皆様の業務についてお聞かせください。

後藤則夫（以下、後藤） ABO SINGAPORE は、2012 年（平成 24 年）9 月の設立以来、本社保有船の買取・移管あるいは中古船の買船を通じて、安保商店グループの発展に努めています。これまで 5 隻のケミカルタンカーを購入し（内 2 隻は既に売却）、大手オペレーターに貸し出しております。当地の制度上のメリットも十分生かすことが出来ております。設立時に私のみであったメンバーも現在では 4 名になりました。

三野良（以下、三野） 私は 2014 年（平成 26 年）に安保商店へ入社し、2019 年（平成 31 年）4 月からシンガポールで勤務しています。私は前職から 2 度目のシンガポール勤務ですが、世界の海運・荷主・情報が集まるこの国の“地の利”と“税制メリット”に魅力を感じています。

安保貴史 私は日本で大学を卒業した 2015 年（平成 27 年）に渡星し入社しました。その後約 2 年間、この国で業界の諸先輩方との交流を深め、知識や経験を得ました。現在は豪州の大学院に在籍しています。

デーブ・チュー（以下、チュー） 私は 2014 年（平成 26 年）2 月に入社しました。現在は船舶管理関係を含めた運航業務を担当しています。素晴らしい会社の一員として働く機会を与えていただき感謝しています。

— 今後の目標やビジョンをお聞かせください。

三野 安保商店の歴史やノウハウを次世代へ繋げ、その規模を拡大し

左から
三野 良
安保 貴史
後藤 則夫
デーブ・チュー



ていくことを目標として、自覚と責任をもって業務に精進したいですね。

チュー 私は安保商店グループが掲げる「Trust is our Treasure」が示す、最高のサービスと高品質の船舶をお客様にご提供することに全力を注いでいます。安保商店 100 周年を見据えて、これからも最善を尽くしていきます。

安保貴史 大学院卒業後は、和田連や安保大輔と同様に業務経験を積み、ABO SINGAPORE での船主経営に携わりたいと考えています。シンガポールという地の利を生かした経営を末永く行っていけるよう、努力していきたいと思います。

後藤 現在、世代交代と事業承継も着々と進んでおり、今後もタイミングを見計らって ABO SINGAPORE として保有船の増強に取り組んでいきたいと考えております。